

利用者が敷地外から、施設への導入、そして施設内において円滑に行動ができるように、案内・誘導するサインを体系化して配置することで、連続性のある一貫したシステムを構築することが大切である。

案内→誘導→記名

サインシステムの原則は、案内→誘導→記名である。利用者の行動の起点となる場所で、現在位置と目的地の位置関係が分かる案内図で全体の把握ができるようにし、主要な分岐点で施設の方向を示し、目的地についたことを知らせる。

例えば、駅の周辺案内サインで目的地を確認する。目的地に行くまでの交差点にある誘導サインで方向を確認し、目的地についたことを記名サインで確認する。屋外から屋内へと続くサインも同じで、入口付近で建物の中の内容を確認し、目的地の階数や位置関係を把握、その後主要な分岐点で誘導され、目的地に到達する。

